

2024(令和6)年度作成 ハンセン病問題啓発 DVD 上映時間:90分

栗生の園に生きた証

～ハンセン病問題から見える『今』～



表紙：「カナリヤと少女」鈴木時治（栗生楽泉園入所者自治会所蔵）

一般社団法人群馬県社会福祉士会 ハンセン病福祉研究委員会

〒371-0843 群馬県前橋市新前橋町13-12「群馬県社会福祉総合センター」7階

TEL: 027-212-8388 FAX:027-212-7260 E-mail:info@gunma-csw.or.jp

<https://www.gunma-csw.or.jp/>

協力 国立療養所栗生楽泉園／栗生楽泉園入所者自治会／群馬県健康福祉部感染症・疾病対策課

群馬県草津町に「栗生楽泉園（くりうらくせんえん）」というハンセン病の療養所があるのをご存知でしょうか。2024（令和6）年12月現在、楽泉園には30名の方々が暮らしています。このDVDでは、「楽泉園がいつ、どうして作られたのか」「ハンセン病が治る病気になった今でも、退園せずにそこで暮らしているのはなぜか」ということについて、入所者のインタビューを中心に説明しています。

入所者の方々のインタビューでは、ハンセン病にかかったことでどのような体験をしたのか語られているのと同時に、高齢になった今、自分の人生を振り返ってみてどのように感じているのか、ということも語られています。

また、映像の中には入所者の方々を中心に、10名の関係者のインタビューが使われています。楽泉園の元職員や地域住民の方々から「過去の楽泉園と社会との関係」「入所者の思いと支援活動」、そして現在の職員の方々から「現在の楽泉園での仕事や思い」についてお伺いしています。このDVDは、これまでに作られたハンセン病問題を題材にした啓発資料の中では、比較的「現在の視点」の強いものです。そういった点でも、他の資料と組み合わせることで、人権の問題に関する有効な学習と教育の機会を得られることが期待されます。



私たちハンセン病福祉研究委員会は、群馬県内の学校などに出向き、ハンセン病問題を通して身近にある偏見・差別・いじめ等について考える機会を設け、人権への意識を高める。また、当事者の高齢化が進む中で、問題の風化を防ぎながら、入所者（支援）の現状を一般市民等へ伝える活動を行っています。

< 本DVDを活用した人権教育実施例 >

1. 厚生労働省（自治体作成含む）配布パンフレットと組み合わせた教育活動
2. 楽泉園に暮らすハンセン病回復者と委員による教育活動
3. 地域で暮らすハンセン病回復者と委員による教育活動 等

授業方法・内容・日程等、ご相談に応じます。詳細についてはお気軽にお問い合わせ下さい。